

中国国家図書館における障害者向けサービスの概況

中国国家図書館業務管理处処長 毛雅君

一、構築の背景

目下、中国の障害者人口の総数は 8,296 万人を超え、全国の総人口の 6.34%を占めています。このうち視覚障害者は 1,263 万人、うち重度の視覚障害者は 824.8 万人です。障害者、とりわけ視覚障害者について言えば、いかにして知識を獲得し、自身の資質を高め、平等に社会生活に参画するかということは生存上の問題であるだけでなく、発展上の問題でもあります。近年、中国政府は障害者事業に持続的に力を注いでおり、医療、リハビリテーション、教育や就業、福祉等の面で絶えず拡大、整備を行っています。文化事業の面においては、國務院が「中国障害者事業」第 12 次五カ年計画「発展綱要」¹の中で「障害者の社会保障体系及びサービス体系構築の推進を加速させ、障害者の置かれている状況を速やかに改善し、障害者の生活状況と社会の平均水準との格差を継続的に縮め、障害者が全ての国民と同じようにより高い水準の豊かな社会へ邁進させるように努力しなければならない」とはっきりと表明しています。このような綱領的文書の発表は、障害者の平等な社会生活への参画、改革発展の成果を共有する権利の実現を制度上保証し、またバリアフリーの思考モデルが政府の今後の業務構想の 1 つとなることを表明したものとと言えます。

図書館は社会の知識伝播の中心として知識サービスを担う重要な職責があり、効果的な方法を用いて障害者が差別なく文化サービスを利用できるようにする責任を負っています。インターネットを用いた障害者向けデジタル図書館の構築により、障害者が社会と隔離された状況を改善できます。これは障害者が平等に社会生活に参画する上での基本条件であり、調和のとれた社会を構築する上での重要な取り組みの 1 つでもあります。

二、国内外の研究とサービスの実践

(一) 海外におけるサービスの実践

早くは 20 世紀の 80 年代に、障害者デジタル図書館に関する研究が図書館業界において国際的にかなりの注目を集めました。国際図書館連盟は 1983 年に視覚障害者図書館との連合分科会を成立させました。1999 年にはアメリカ議会図書館の全国視覚障害者・身体障害者図書館サービス局 (NLS) と国家視覚障害者連盟 (NFB) が共同で「ブックシェアプロジェクト」(bookshare.org)²を提唱しました。2002 年にはカナダ国家視覚障害者協会図

¹ 中国政府が 2011 年に発表した、障害者事業の発展・整備に係る政府方針を示した文書。JICA (国際協力機構) による日本語訳が以下のページに掲載されている。

< http://www.jica.go.jp/china/office/others/issues/ku57pq00001unt5x-att/seisaku_10.pdf >

² オンライン上でデジタルフォーマットの図書を提供する会員制のデジタル図書館サービス。ブックシェアプロジェクトの取り組みについては以下の文献の第二章で紹介されている。

国立国会図書館関西館事業部図書館協力課編『デジタル環境下における視覚障害者等図書館サービスの海

書館が全所蔵資料をデジタル化して視覚障害者向けデジタルポータルサイトを開設し、その後マイクロソフト社と協同で世界初の視覚障害者及び視覚障害を有する児童のためのポータルサイトーデジタル図書館連携システムを構築しました。2005年にはフランスで「障害者の権利と機会の平等、参加および市民権に関する法律」が公布され、その Gallica デジタル図書館には「バリアフリー」ホームページが設けられて、テキストフォーマットをオーディオブックに変換することができるようになりました。また 2010年に立ち上げられた TIGAR プロジェクト³は、世界各地の読書障害者が著作権法の保護を受けた閲覧可能なフォーマットの作品を利用できるようサポートするものですが、その参加者の大多数は各国の視覚障害者図書館でした。

このほか、日本、オーストリア、韓国、パラグアイ等の国においても障害者デジタル図書館が相次いで建設され、デジタルリソースの提供モデルの研究がなされており、大学の学内ネットワーク、商用レファレンスデータベース等と全方位に向けたネットワークシステムを構築しています。障害者がネットワークアクセスを通じて情報を取得する能力を向上させ、障害者と社会とのコミュニケーション及び一体化を深めることを重視しています。

(二) 国内における研究とサービスの実践

近年、中国国内の図書館の障害者向けサービスにおける理論研究と実践は、全てにおいて一定の成果を得ています。基礎理論の面では、障害者向け図書館サービスのモデルと理念、法律や政策、標準及び規範、情報の需要についての研究、リソース構築、メカニズムの確立等全てに及んでいます。わが国の学術界におけるこの面の大規模な研究は 2000 年ごろに始まり、研究の重点は国際的な図書館界における障害者デジタルサービスの現状の紹介、及びわが国の障害者デジタル図書館実施についての理論や考え方に置かれています。国家社会科学基金重点プロジェクト「社会的弱者へ知識を援助する図書館の新制度の構築」は、バリアフリー環境と特殊文献リソースを構築するという障害者サービスの基本施策の充実を提唱しました。また北京大学情報管理学科の王素芳氏による博士論文「公共図書館における社会的弱者向けサービスの研究」は、障害者を含めた社会的弱者の概念、国内外の研究の歴史等をはじめとして、社会的弱者向けの図書館サービスの問題について系統的な研究を行いました。当館の陳力副館長が主宰する国家社会科学基金重点プロジェクト「公共文化サービス体系構築における障害者の情報取得の保障方法とモデルの研究」は、現在実施中であり、2016年に終了する予定です。中国視覚障害者図書館が牽引する「図書館の視覚障害者向け文化サービス規範」国家標準制定プロジェクトは、国家標準化管理委員会により 2014年に

外動向』(図書館調査研究レポート No.1), 国立国会図書館関西館事業部図書館協力課, 2003.8.

< <http://current.ndl.go.jp/report/no1> >

³ 視覚障害者等の支援を目指して、(著作権が切れていない)書籍や電子書籍をアクセシブルなフォーマットで国際的に流通させるための活動を行うプロジェクト。TIGAR プロジェクトの概要については、DINF(障害保健福祉研究情報システム)のホームページに掲載されている、カナダ国立盲人協会(CNIB)のマーガレット・マグローリー氏による報告資料に詳しい。

マーガレット・マグローリー「TIGAR プロジェクト」(「読む権利に関する国際会議」,セッション 1 (2))

<<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/access/daisy/sympo20110210/index.html>>

正式にプロジェクトが立ち上げられ、現在実施中です。国家図書館が牽引する「公共図書館の聴覚障害者向けサービスガイド」と「図書館サービス読書障害者向けガイド」の2つの国家標準は現在承認申請中です。

実践面では、障害者サービス利用に関する理論と研究の促進、障害者向けのデジタル図書館の新技术への応用研究が注目されており、「中国視覚障害者デジタル図書館」、「中国障害者デジタル図書館」が続けてプロジェクト化され、各地で障害者連合会又は図書館が開設した障害者デジタル図書館が相次いで出現し、関連する技術ガイド、構築標準、探索リソース共有、新しい収集モデル及び情報のバリアフリー技術手段の開発と応用が模索されています。

三、中国視覚障害者デジタル図書館ウェブサイト

2008年10月、国家図書館、中国障害者連合会、中国点字出版社の3団体が企画した中国視覚障害者デジタル図書館のウェブサイトが正式に開設されました。これは国内初の国家レベルの視覚障害者向けサービスを専門としたネットワーク図書館であるだけでなく、国内で率先してバリアフリー化の国際標準に依拠して構築した非障害者機構によるウェブサイトでもあり、リソースの選択、技術応用、連携モデル等あらゆる面で先陣を切りました。ウェブサイトの開設以来、101の国と地域の利用者が利用し、総クリック数は延べ19,529,709回、アクセス者数は425,609人に達しました。ウェブサイトは国際障害者権利委員会の高い注目を受けており、また中国政府による「障害者の権利に関する条約」⁴の履行を具体的に体現するものでもあります。

(一) バリアフリーデザイン

中国視覚障害者デジタル図書館ウェブサイトは人間本位をモットーに、情報のバリアフリー理念を提唱及び実践し、先進的な技術を集め、WCAG2.0(ウェブコンテンツ・アクセシビリティ・ガイドライン)⁵に準拠してリアフリーホームページをデザインし、XHTML1.0の技術規則に合致させて視覚障害者用読み上げソフトに対応することで、視覚障害者、視力に障害を持つ人々、認知機能に障害を持つ障害者のために、多種多様なインターネット上で情報取得方法を提供します。そのバリアフリーデザインは主に以下を体現しています。

1. マルチメディア関連情報へのアクセシビリティ

ウェブアクセシビリティを向上させ、マルチメディア情報等の非テキストコンテンツをテキスト等の形式に代えて提供することで、閲覧体験を完全なものにします。具体的には以下のとおりです。

(1) 全てのウェブページにおいてキーボード操作(Tabキーを使用して各エリア間の選

⁴ 障害者の権利の実現のための措置等について定める国際条約。外務省のホームページに条約全文の日本語訳が掲載されている。

「障害者の権利に関する条約」(外務省)

< http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html >

⁵ インターネットに関する技術開発と標準化を行っている国際的団体である World Wide Web Consortium が、Web アクセシビリティを確立することを目的として、WCAG1.0の改定版として公表した12項目のガイドラインと達成基準等で構成されるドキュメント。

扱、移動を行う)を可能にし、マウスに限定しないようにする。

(2) ウェブサイトに「点字ブロック」 (:::) ⁶へのアクセスキーを設け、使用者が速やかに各主要エリアにたどりつけるようにする。

(3) ホームページの画像は全て文字説明を表示し、読み上げソフトで情報を読み取りやすくする。

(4) 全ての相互リンクに文字表示を追加する。

(5) 全てのテキストボックスに読み上げ機能を追加する。

2. ホームページの構造とデザインのアクセシビリティ

ウェブサイトのページは次の4つのエリアに分かれます。左側メニュー選択エリア、主要メニュー選択エリア、右側メニュー選択エリア、及びヘッダーのリンクエリアです。

「点字ブロック」へのアクセスキーを利用すれば、対応するエリアにすぐに進めます。電子書籍、オーディオブックといった2階層目のページには全て、細分類に対して「点字ブロック」が設けられており、利用者がリソースの各分類を直接かつ速やかに切り替えることをサポートしています。このほか、視覚障害者の利便性をはかるため、よく使用する操作についてはショートカットキーを設けました。ウェブサイトはショートカットキーカスタマイズ機能を提供し、利用者は自分のニーズに基づいて個人設定ページに自分の好きなショートカットキーを設定できます。

デフォルトのショートカットキーは次のように設けられています。

Alt+C：左側エリアであり、この部分はホームページの主要コンテンツです。

Alt+B：右側エリアであり、この部分は利用者情報とウェブサイトの拡張機能です。

Alt+K：ヘッダーエリアであり、この部分はウェブサイトの主要機能の選択及び関連ウェブサイトへのリンクです。

Alt+O：「精品チャンネル」トップページの分類間でジャンプします。

Alt+N：読書ページ内から「次のページ」リンクにジャンプするショートカットキーです。

Alt+M：読書ページ内から新規ブックマークテキストボックスにジャンプするショートカットキーです。

Alt+J：ウェブサイトへのアクセスの際に操作ガイドのリンクにジャンプするショートカットキーです。

3. ウェブサイト閲覧メカニズムのアクセシビリティ

ウェブサイト閲覧補助ツールを提供しており、視力に障害を持つ人々、認知機能に障害を持つ障害者や高齢者に役立ちます。

(1) ホームページコンテンツの自動読み上げ

⁶ 原文「導盲砖」。ウェブサイト上の特定エリアに仮想的な「点字ブロック」を設置し、ショートカットキーによる点字ブロック間の直接移動を可能にすることで視覚障害者にも操作しやすいようにしている。

- (2) ホームページの表示スケール、文字及び背景色に対するカスタマイズ
- (3) ウェブサイトの多言語バージョンサポート
- (4) 音声速度の調整、音量の調整、拡大表示等のカスタマイズ機能の提供

(二) リソースの構築

視覚障害者の方々の実際の需要に基づき、中国視覚障害者デジタル図書館ウェブサイトは以下 9 つの特別なナビゲーションを設けました。それはニュース動向、電子図書、音楽鑑賞、オンライン講座、最新公告、利用ガイド、新収蔵書速報、機構紹介とサイトマップです。

中国視覚障害者デジタル図書館ウェブサイトは「構築しながらサービスを行う」という原則に基づき、ウェブサイト構築と情報サービスとを有機的に結合させ、かつ実際の構築プロセスにおいて絶えず利用者からのフィードバックを取得し、それを次の段階の設計構想の中に取り入れてきました。現在の利用者サービスには主に以下のリソースが含まれます。

1. 電子図書

2015 年 9 月末までに、中国視覚障害者デジタル図書館は累計で 5,197 種類の図書、157 万 8,840 ページ (図)⁷を公開してきました。その分野は哲学、社会科学、政治、経済、文学、歴史、医薬衛生等に及びます。電子図書リソースのフォーマットは txt で、利用者は読み上げソフトを通じて読み取ります。

2. 音楽鑑賞

2015 年 9 月末までに、中国視覚障害者デジタル図書館は累計でクラシック音楽 9,264 曲、ポピュラー音楽 588 曲を公開しました。

3. オンライン講座

2015 年 9 月末までに、中国視覚障害者デジタル図書館は累計で 901 回の講座を公開しました。

4. オーディオブック

2015 年 9 月末までに、中国視覚障害者デジタル図書館は累計で 320 冊のオーディオブックを配布します。その分野は法律、科学、学習資料等に及びます。

サービスのリソースから見れば、リソースフォーマットは多様であり、プレーンテキストフォーマット (TXT) もあり、音声ファイルフォーマット (MP3)、ビデオフォーマットもあります。コンテンツを全面的にカバーしており、電子書籍をはじめ、音楽、講座やオーディオブックもあります。このうち、書籍についてはプレーンテキストフォーマットの電子書籍の数がオーディオブックの数よりもはるかに多くあります。国内の環境全体から見れば、主流のサービス方式はやはり読み上げソフトを用いてのプレーンテキストフォー

⁷ 原文は「157,8840 万頁 (图)」だが、「157 万 8840 ページ (图)」の誤記と思われる。

マットの閲覧がメインです。

(三) 利用者認証

中国視覚障害者デジタル図書館ウェブサイト利用者認証システムは、インターフェースを通じ各種データベースへのログイン機能を集中させ、シングルサインオンを可能にしています。このようにして、視覚障害を持つ利用者は利用者認証システムにより、このうち1つのリソースシステムにおいて認証を行い、ログイン成功後、その他リソースシステムにアクセスする際には二次認証の必要はなく、システムやドメインを越えた統一的なユーザー情報管理と認証を実現し、利用者が異なるアプリケーションシステムにアクセスする際の利便性と一貫性を保証します。

ウェブサイトは公安部の中国障害者基礎人口データベースと国家図書館利用者認証システムとの連結も実現しており、わが国の第二代障害者証⁸を所持する利用者がウェブサイトでは会員登録してログインした後は、中国語・外国語書籍のオンライン閲覧やオーディオブックのダウンロード、音楽及び国家図書館が実施する講座を楽しむことができます。

(四) ウェブサイトの特色

1. 革新性

サービスの「”走出去”（外部展開）と”請進來”（ユーザーの呼び込み）」戦略の実施は、伝統的なサービス方式を覆すものであり、ネットワークプラットフォームと来館サービスプラットフォームのスムーズな連携を実現し、バリアフリーのウェブサービスと国家図書館の特色ある資料を視覚障害者の方々に届けます。

2. 有効性

中国視覚障害者デジタル図書館のウェブサイトは、視覚障害者の需要と実際の状況を出発点とし、健常者と視覚障害者が同等の文化サービスを楽しむことができるようにしたことで、業界関係者や視覚障害者の方々から好評を得ています。

3. 科学性

中国視覚障害者デジタル図書館のウェブサイトは、WCAG2.0(ウェブコンテンツ・アクセシビリティ・ガイドライン)が定める国際標準に準拠して構築され、マルチメディア関連情報のアクセシビリティ、ホームページの構造とデザインのアクセシビリティ等の多方面からウェブサイトのバリアフリー化構築を確実に実施します。

4. 実践性

中国視覚障害者デジタル図書館のウェブサイトは、調和のとれた社会における公共文化サービス均等化の理念を実践しています。このことは、視覚障害者が真の意味で公共文化の

⁸ 第一世代障害者証に代わるものとして作成された新しい障害者証。偽造防止措置等、時代の変化に即した改良が行なわれている。第一世代障害者証を所持している場合は申請することで第二代障害者証に交換できる。

サービス体系に組み込まれたということを示しています。

5. 模範性

中国視覚障害者デジタル図書館のウェブサイトは、中国初となる国家レベルの視覚障害者のためのネットワーク図書館であり、その構築過程で生み出された共同構築のメカニズムは、今後の視覚障害者図書館サービス発展の優れたモデルとなります。

(五) 共同構築

中国視覚障害者デジタル図書館は、公益サービス事業として、交流と協力の展開に努め、プラットフォームの構築やリソースの共同利用について、相互補完と協力的な発展を実現しています。

1. 政府機構、図書館との協力

2010年7月27日、国家図書館の主導で全国図書館情報サービスバリアフリー連盟が結成されました。連盟は「全国図書館情報サービスバリアフリー連盟提案書」を公表して業界関係者に協力を呼びかけ、障害者のための普遍的で均等な文化サービスの条件を積極的に整え、障害者文化事業の持続可能な発展を共に推進してきました。

2011年4月23日、中国障害者連合会と国家図書館が共同で「全国障害者読書指導委員会」を結成しました。委員会は、全国の図書館関係者と共に、経験を共有して交流・協力し、また障害者の読書に関心を寄せて配慮・サポートし、わが国の障害者文化サービスのチャネルと領域を拡大することによって、障害者に対してさらなる良質なサービスを提供しました。当日開設された「中国障害者デジタル図書館」のウェブサイトは、「中国視覚障害者デジタル図書館」を基礎に、中国語の図書データベースと国内外の新聞・雑誌データベース等のコンテンツを加えました。

このほか、中国図書館学会は、業界と社会に向けて「図書館による公平な情報リソース獲得の促進」活動提案書を発表し、中国図書館界が社会大衆とともに障害者のためのより完全な読書サービスシステムを一步步築き上げることを提唱しました。

2. 企業、社会団体との協力

2014年、騰訊公司（テンセント）⁹は、パブリックイベント「視覚障害者のための朗読」（パブリック ID : voicedonate）を実施し、「微信」¹⁰のプラットフォーム（we-chat）を通じて「声を寄贈」し、視覚障害者の読書に貢献することを呼びかけました。ユーザーは、ある書籍の一節のテキストを取得してその部分を朗読し、「微信」を通じてその音声データを騰訊公司のレポジトリに転送します。騰訊公司は後工程でスクリーニングにより利用者が寄贈した断片的な音声データを編集し、最終的に1冊のオーディオブックに統合します。

⁹ SNS やオンラインゲームなどネットワーク系のコンテンツを提供する中国の大手 IT 企業。

¹⁰ 騰訊公司が提供するインスタントメッセージングアプリ。「LINE」等のチャットアプリと類似の機能を持つ。

さらに、騰訊公司是「団体朗読」、「著名人朗読」、「リクエストブックリスト」、「合同朗読」等の機能も提供しています。

2015年、中国国家図書館、中国障害者連合会は、騰訊公司与オーディオブックの公益配布活動について連携することを発表し、かつパブリックイベント「視覚障害者のための朗読」の「団体朗読」の主要メンバーになりました。騰訊公司是、収集したオーディオブックの音声ファイルを、著作権処理を経た後に中国国家図書館、中国障害者連合会に提供し、両者がカバーする全国のネットワークサービスシステムに無料で公開し、視覚障害者の利用拡大に供します。

四、わが国のその他の図書館と機関が展開する視覚障害者向けサービス

(一) 中国点字図書館

中国点字図書館は、「利用者本位の蔵書の活用」の理念に基づき、豊富な文献リソース、充実して施設と行き届いたサービスを拠りどころとして、視覚障害者向けの書籍・雑誌の閲覧貸出、資料検索と生涯学習サービスを提供する役割を果たしてきました。目下、中国点字図書館は、社会科学・文芸点字閲覧室、科学技術・医学点字閲覧室、視覚障害者電子閲覧室、オーディオブック閲覧室、視覚障害児閲覧室、大字本閲覧室、学術閲覧室、レクリエーション閲覧室の8つの閲覧室を設けています。

中国点字図書館の所蔵資料は、点字図書1,600タイトル、30,000冊、点字雑誌300タイトル、4,700冊、大字本図書210タイトル、5,410冊、点字・普通字対照書籍196タイトル、6,000冊、オーディオブック2,000タイトル、10,000枚が含まれます。このほか、放送資料、解説放送¹¹、研修講座等の電子資料も提供しています。

(二) 上海バリアフリーデジタル図書館

2011年12月2日、上海バリアフリーデジタル図書館が開設されました。そのねらいは、障害者、高齢者向けにバリアフリー閲覧の図書館情報プラットフォームを提供することにあります。バリアフリー処理を経て、同館は障害者向けに2,000タイトル余りの電子ブックの全文音声閲覧サービスと全620回、1,000時間余りのオンライン講座を提供できるようになりました。

このほか、上海図書館は、メインポータルサイトのバリアフリー化を実施し、音声によるホームページ読み上げ機能を提供することで、ホームページの内容を「見ることも聞くこともできる」ようになりました。そのために、同館では、音声合成技術を採用して文字を音声に変換しました。

(三) 山東省「光の家」視覚障害者デジタル図書館

2014年10月24日、山東省「光の家」視覚障害者デジタル図書館が開設されました。同館は、音声技術を利用して、視覚障害者の音声コマンドによるアクセス、音声ガイド及びリソースの音声朗読を実現し、視覚障害者の方々がインターネットを利用して容易に文化

¹¹ 主に視覚障害者向けにテレビジョンの音声多重放送を使って場面の解説を放送するテレビ番組。

知識を得られるようにしました。山東省視覚障害者デジタル図書館は、適用可能な視覚障害者デジタルリソースを導入・開発し、伝統的なデジタルリソースに対してバリアフリーデジタル化の改良を行い、また、音声リソースの利用とテキストデータのデジタル化に注力して、視覚障害者デジタルリポジトリ群の第一段階構築を行いました。目下、各種音声データ 2 万件余りがすでにアップロードされており、文化学習、技能トレーニング及び娯楽生活等の各分野をカバーしています。

山東省視覚障害者デジタル図書館は、革新性をもって「一站、一網、一庫（1 つのサイト、1 つのネットワーク、1 つのデータベース）」のオペレーションサービスモデルを適用し、障害者へのオーディオブック、講座、音楽及び映画・テレビ・演劇等のリソース提供を拡大しました。現在までに、視覚障害者デジタル資料にアクセス可能な閲覧室が省内に計 20 余り設置されています。今後 3～5 年間で山東省政府の財政から、3,000 万元を投資する予定です。この予算により、このサービスポイントを全省 150 の障害者サービスセンター、養護学校と 150 余りの公共図書館に拡大し、さらに 3 万件の音声図書リソースをアップロードする予定です。さらに、視覚障害者の方々が文化知識を獲得し、生活及び就業のための技能トレーニングを受け、文化娯楽を楽しむことができる音声電子リポジトリを構築中で、そのリソースの件数は 5 万部（集）、容量は 10TB を目指しています。こうして、より完全な視覚障害者向け閲覧サービスシステムを構築していきます。

（四）ヒマラヤラジオ

「ヒマラヤ」は 2012 年 8 月に公開された、気軽に個人ラジオ局を開設し、音声を随時共有できるネットワークプラットフォームです。「ヒマラヤネット」では、ユーザーは手軽に音声作品をアップロードしたり、自分のラジオ局を開設したり、フォロワーを増やして交流することができます。現在のところ、最新情報、音楽、音声小説、相声¹²・講談、バラエティ・エンターテイメント、心・人生、歴史・人文、外国語、研修講座、百家講談、ラジオドラマ、戯曲、児童、個人放送局、ビジネス・財政経済、IT・科学技術、健康養生の多数のジャンルがあり、ユーザーは、パソコン、携帯電話等のモバイル端末を通じていつでもどこでも自分の興味があるコンテンツを視聴できます。ヒマラヤは、代表的な音声共有プラットフォームであり、とりわけ豊富なリソースの優位性、各種モバイル端末を通じたスピーディなデータの共有と伝播により、広範囲のユーザーをカバーすることができます。図書館は、ヒマラヤ等の音声共有サイトとの交流を強化し、リソース、技術及びサービスモデル等の面から大いに協力し、Win-Win の発展モデルを模索し、障害のあるユーザー向けにさらに良好な閲覧サービスを提供します。

五、発展の展望

障害者向けの情報バリアフリーサービスは一定の成果をあげているものの、ユーザーの真の情報取得バリアフリーにはまだ至っておらず、今後も改善を続ける必要があります。

（一）障害者向けデジタル図書館リソースの構築プラットフォームの多角的な改善と障

¹² 日本の漫才に相当する中国の演芸の一種。

害者をサポートする全方位的・立体的な文化情報サービスシステムの構築

障害者の需要を中止し、障害者コミュニティ、養護学校、障害者ユーザー及び障害者向け閲覧サービスに従事する図書館員等と協力してユーザーの需要に関する調査研究を行い、障害者向け閲覧サービスのための科学的根拠を提供します。

図書館の資料購入方針を障害者重視にシフトし、障害者向け閲覧リソースの購入、制作、配布に注力します。ナビゲーションの配置を最適化し、障害者ユーザーが興味を持てるようなデジタルリソースのカテゴリーを追加します。また、障害者ユーザーに適さないウェブ設計を排除し、バリアフリー化のレベルを強化します。さらに、ニューメディア技術や情報バリアフリー技術を持つ企業との連携を強化し、携帯電話、テレビ、モバイル閲覧端末を開発し、パーソナルカスタマイズ等の観点から現有のリソース提供方式を最適化させ、新しいアクセス方式を開拓します。

(二)障害者向けデジタル図書館の技術ガイドと構築標準研究の展開

海外における関連プロジェクトの近年の発展をフォローし、国家社会科学基金の重点プロジェクト「図書館による障害者向けサービスモデルと規範の研究」のもと、国内の情報バリアフリー分野の専門家とともに、国際的にも国内でも通用する標準に適合するデジタル図書館情報バリアフリー技術ガイドを速やかに制定します。また、デジタル図書館分野の情報バリアフリー技術サービス要件に適合させ、障害者へのリソース取得ガイド、オンラインでの音楽映像資料へのアクセシビリティ、公共目録検索補助等の標準規範を制定します。

(三) 情報バリアフリー技術手段の開発と応用の強化

バリアフリーアクセスに適合しないリソースの組織形式とバックグラウンド管理のパターンを排除し、技術製品の研究と応用を速やかにサポートします。最新の国際的な情報バリアフリーの理念と技術発展の趨勢をフォローすることに注力し、バリアフリーサービスのキーポイントとなる技術の研究を展開します。ニューメディア技術や情報バリアフリー技術を持つ企業との連携を強化し、携帯電話、テレビ、モバイル閲覧端末を開発し、パーソナルカスタマイズ等の観点から現有のリソース提供方式を最適化させ、新しいアクセス方式を開拓します。